

リンドウの半促成栽培における窒素施肥法

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

1 部門名

花き - リンドウ - 施肥法、作型・栽培型

2 担当者

矢島 豊・山口繁雄・鈴木安和

3 要旨

無加温ハウスを用いたリンドウの半促成栽培では、環境条件が露地栽培と大きく異なるため、その条件に合わせた施肥が必要である。そこで、「ふくしまさやか」を用いた半促成作型における切り花品質の向上に有効な窒素施肥方法を明らかにした。

- (1) 半促成栽培では、露地栽培より窒素成分の肥効を早めることにより切り花品質が向上する。具体的方法として、以下の2方法が考えられる(表1)。
- (2) 緩効性配合肥料を用いる場合は、残茎処理後の12月頃(保温開始前)に露地栽培の春肥にあたる追肥を行う。試験では、りんどう・トルコぎきょう専用肥料 有機S826V(窒素成分8%中に速効性1.8%、LP140 4.0%、有機質由来2.3%を含有)を用いた。
- (3) 保温開始前の追肥の施用が難しい場合は、速効性窒素と緩効性窒素の配分を変更して速効性成分を増量し、保温開始時に施用する(表2)。本試験では、りんどう・トルコぎきょう専用肥料 有機S826Vに硫酸を追加し、肥効成分比を速1:緩1とした。
- (4) 肥効を早める影響から採花後に肥切れする可能性が高まるため、採花後の追肥が必要となる。(図1)。

表1 追肥時期と切り花品質

試験年次	春肥時期	切り花長 (cm)	切り花重 ¹⁾ (g)	花段数 (段)	葉長 (cm)	茎径 (cm)
2007年	保温開始前(12月)	96.8 a	46.4 b	6.3 b	10.7 b	5.1 b
	保温開始時(1月)	97.4 a	46.2 b	6.2 ab	10.3 a	5.1 b
	萌芽後(2月)	97.5 a	44.1 a	6.0 a	10.4 a	5.0 a
2008年	保温開始前(12月)	117.8 b	43.3 b	5.8 b	10.0 b	4.3 b
	保温開始時(1月)	109.8 a	39.7 a	5.4 ab	9.5 a	4.0 a
	萌芽後(2月)	118.1 b	39.2 a	5.2 a	9.8 ab	4.1 ab

Tukeyの多重比較法により、同一年次内で同符号間に5%水準で有意差なし
1)90cm調製重

表2 肥効の配分と切り花品質

試験年次	試験区 ¹⁾	出荷規格別割合 ²⁾ (%)				
		2L	L	M	S	規格外
2007年	速1:緩1	61.1	22.4	14.4	1.4	0.7
	速1:緩3	48.3	23.1	26.8	1.8	0.0
2008年	速1:緩1	81.6	1.0	13.3	4.1	0.0
	速1:緩3	73.8	6.3	16.3	3.8	0.0

1)速効性窒素=硫酸、緩効性窒素=LP140 2)出荷規格:
L=80cm以上+5段、M=70cm以上+4段、S=60cm以上+3段

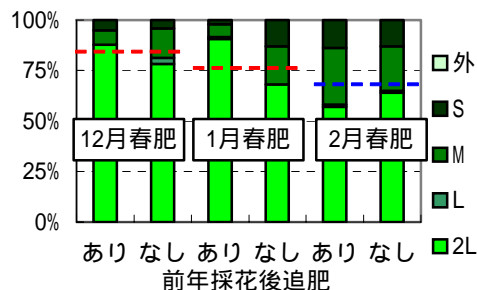


図1 採花後追肥の有無と切り花の出荷規格 (2008年、ふくしまさやか)

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成19～20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2007～2008)